

KSK 川崎市障害者社会参加 推進センター通信

編集人 川崎市障害者社会参加推進センター
所長 中込 義昌 なかごめ よしまさ
編集責任者 広報・啓発委員会
委員長 伊藤 實 いとう みのる
〒210-0834 川崎区大島 1-8-6
川崎市南部身体障害者福祉会館内
電話 044-246-6941
FAX 044-246-6943
E-mail zksk@nifty.com
<http://kawashinkyo.org>

平成 31 年度 川崎市障害者作品展



平成 31 年度 川崎市障害者作品展がアートガーデンかわさき第 3 展示室にて、令和元年 12 月 18 日（水）～12 月 22 日（日）の 5 日間にわたり開催されました。

今年度は、絵画 36 点・手工芸品 7 点・書 9 点・写真 9 点・俳句等 2 点、計 63 点の展示を行いました。観覧者数は一昨年度が 257 名、昨年度は 303 名でしたが、今年度は 506 名と大幅に増加しています。関係する皆様方のご協力のおかげで、障害者作品展がだいぶ認知されてきているものと思われます。

また、21 日（土）、22 日（日）に同時開催されたワークショップ（創作体験）も好評で、昨年の体験者数は 47 名でしたが、今年は 75 名もの方に体験していただき、川崎市中部身体障害者福祉会館 作業室による、アイロンビーズ作り、（公財）神奈川県社会復帰援護会による、3 色パステルアート体験、地域活動支援センター 糸ぐるまによる、クリスマスリース・ツ

リー作り、祝い箸作りの 3 つのブースでそれぞれ大きな賑わいを見せていました。

作品展に観覧に来られた方からは、『障害の特性を活かしたであろう作品が数多く展示されており素晴らしかった』『障害者の作品と言われなければわからないほど作品のクオリティが高かった』『障害者の作品を見る機会は滅多にないので、見られてよかった』『昨年も来たが見応えのある作品が多くなってきたように思う』など好意的な感想が多く寄せられました。また、作品展への要望として『これからも続けていって、多くのひとに見てもらいたい』『定期的に開催することが作者の意欲につながると思う』『沢山の方に見てもらうために、もっと広報に力をいれたほうがよい』『多くの障害者団体からの応募が増えるとよい』など、今後の作品展に期待を寄せるコメントが多くみられました。



（展示作品の一部）



(アイロンビーズ作り)



(クリスマスリース・ツリー作り)



(3色パステルアート体験)



(祝い箸作り)

川崎市障害者作品展の趣旨

障害者が創作した作品を広く一般に公開することにより、文化交流及び障害者の社会参加推進を図り福祉の向上に寄与することを目的とします。

主催：川崎市

川崎市障害者社会参加推進センター

共催：公益財団法人川崎市文化財団

後援：公益財団法人川崎市身体障害者協会

神奈川新聞社

tvk (テレビ神奈川)

かわさき FM (かわさき市民放送)

一般来場者アンケートより

来場者数 506 名 アンケート回収数 305 枚
市内 216 名、市外 85 名、未記入 4 名

【障害別】

なし 225 名、身体 29 名、知的 14 名、
自閉 9 名、精神 9 名、その他 1 名、
未記入 13 名

【年齢】

～10 代 14 名、20 代 6 名、30 代 14 名、
40 代 29 名、50 代 43 名、60 代～182 名、
未記入 17 名



平成 31 年度障害者作品展を終えて

平成 28 年度より現在の場所（アートガーデンかわさき）で開催されてから 4 回目となるが、出展される部門の出展数は変わるが、内容は年々充実してきているように思う。

この作品展では〇〇賞の設定はされていない。これは、誰もが何にもとらわれず一人一人の想いを作品として表現することについて評価することは必要だろうか、との考えである（※）。賞を設定することよりも多くの方に来場いただき、観覧者との想いを重ね合わせてどのような想いで作品を創られたのかということを中心に思い巡らせていただくことで、作者の見たこと、感じたことに触れられるように思う。各作品の下にある添付票には作品名その他、想いや苦勞したことが書かれている。作品と合わせて見ていただくことで内容を深く知ることができるよう工夫されている。

ただ、作品撤去のときに、何気なく声をかけた「とても配色がきれいですね」という言葉をととても喜んでくれた。このときに、評価ではなく何か感想を伝える方法はないだろうか、それが創作の励みになるのではないかと感じた。声を掛けた方も「感想をいただけるととても嬉しいです、また次回も出品したいです」と言われたことがとても印象的であり、友達や仲間と一緒に来られた方は作品を説明している姿が誇らしげに見えた。

想いに評価はつけられないが、次回も出展したい、私も出展してみようかなと思っていただくにはどうしたらいいのか多くの方の知恵をいただきたいところです。

また、今回来場された方の集計をみると障害のない方が障害のある方の約 4 倍近くになっていた。これは「川崎市障害者作品展 実施要綱」の目的とも合致するものであり、作品を通して文化交流が行われたと思うとともに、この作品展が共生社会実現の一端に寄与していると感じている。

主催・共催・後援についても、今回は「かわさき FM」様が後援に加わっていただき 7 団体となったことは、周知や関心を高めるうえで大変ありがたいと思う。

一方で、作品の搬入や展示、搬出は原則として出展者がおこなうとなっており、その時間帯も決まっているので、出展したいが作品が大きい、時間帯が合わないなどのことで出展を諦めているという声も聞いている。

対策としては、代理の方や宅急便の利用も可能としているので、次回は募集要綱をご覧ください送り先などを事務局へ是非相談していただきたい。

障害のない人が多く観覧していただいていることは嬉しい限りですが、障害当事者も自分以外の障害のある人の作品も是非見ていただきたい。

相互理解とは、障害のある人ない人に限らず障害のある人どうしであっても自分以外の障害については意外と知らないことが多いように思う。

国連で採択された SDGs（持続可能な開発目標）の中にも「住み続けられるまちづくり」があるが、共生社会とは障害の有無に係わらず、誰もが理解しあい、誰もが尊重しあえることが重要なのではないだろうか。

また、ワークショップは毎年多くの参加者に体験していただき、観覧への動機づけにもなっており、土日開催を平日も開催していただきたいという声もあるほどで、とてもありがたい。

今年も 12 月中旬ごろ開催されると思うので、早めに準備されて、どの作品を出そうかなと悩む楽しさも味わっていただきたい。

最後に実行委員の皆さん、当番でお手伝いいただいた皆さんありがとうございました。

（※）この展示会の考え方であり〇〇賞のある展示会を否定するものではありません。

平成 31 年度 川崎市障害者作品展
実行委員長 むろずみ ふみお 室住 二三夫

ろう重複児・者作業所設立に向けて MMROU(仮称)委員会発足

”ろう者”という言葉をご存じでしょうか。聴覚障害者の中に、聾学校、日本手話、聾社会に所属している人が、自身を”ろう者”と呼ぶことが多いのです。コミュニケーション手段は、手話の他に身振り、口話、筆談があります。個々の置かれる環境により、コミュニケーション手段は一人一人様々です。絵や写真、資料など視覚的な情報を活用することにより、より正確に伝える工夫を必要とする時もあります。また、”日本手話”を母語(第一言語)としている人にとって、日本語は他言語(第二言語)であるため、日本語の読み書きが苦手なのではなく、読み書きすることが努力や困難を伴うということを理解していただきたいと思います。

NPO 法人川崎市ろう者協会は、現在、聴覚障害とその他の障害を併せ持つ重複障害者(ろう重複)のために、ろう重複障害者作業所の設立に向けて活動しています。

◎ろう重複作業所設立に向けて活動を始めたきっかけ

ろう高齢者ミニデイサービス「なのわ」は、毎月第 1、第 3 水曜日に行っており、リーダーは望月桂子さん(ろう者)です。ある日、「なのわ」に突然 H 氏(聴覚障害者)が訪ねてきました。H 氏は介護について興味があり「お手伝いできるのか?」と相談がありました。その日以降数回お手伝いに来てもらいました。慣れてきた頃に H 氏の様子をみて、外見だけではわかりませんが聴覚障害以外にも障害があることを知りました。働き場がなくコミュニケーション支援もなく困惑している様子でした。望月さんは H 氏を通じて、H 氏と同じように苦しんでいる人や引きこもりの方が大勢にいるのではないかと感じました。行き場のある安心感や、仲間同士分かり合える場が必要だと感じ、作業所をつくる決心をしました。

◎ろう重複作業所設立に向けての取り組み

現在、関東エリアのろう重複作業所は、東京都は「たましろの郷」、埼玉県は「ふれあいの里どんぐり」、千葉県は「らいおん工房」があります。神奈川県と川崎市はまだありません。ろう重複者が、情報・コミュニケーション支援の困難や孤立感を抱えたままの生活を改善するためにも専用の施設は必要です。

また、全国各地に手話言語条例が制定されて、更に「共生社会」を実現するためにも、ろう重複者の手話獲得を促す声が保護者や専門家から上がっています。

川崎市には、ろう重複児者の仲間と親の会「もみじ」という団体があります。代表者は、ろう重複の子どもを持つ親の鈴木淳子さん(健全者)です。ろう重複児・者の親と仲間の支援などについての情報交換を行っています。そして、川崎市ろう者協会の^{おおやまさ と こ}大山聡子さん(ろう者)を代表とし、ろう重複児・者作業所設立の実現に向け「MMROU 委員会(仮称)」を発足しました。しかし、まだ課題もあります。これまで統計調査が行われてきていないため、資料がなく、ろう重複児・者が川崎市内に何人いて、どこに所属しているのか、現状の把握ができていない状況です。今後、学校や関係機関、また知り合いを通じて現状把握の調査をしていきたいと考えています。

2020 年 3 月 1 日にろう重複者ディサービスを開始し、以後、月 1 回の活動を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大を懸念し、延期となりました

ろう重複児・者の方、また親御さん、ひとりぼっちで悩まないでください。相談を賜ります。是非、川崎市ろう者協会の事務所までお越しく下さい。

NPO 法人川崎市ろう者協会

ホームページ: <http://kawasaki-deaf.com/>

FAX 044-752-5559 ^{きょうたに さとら}京谷 暁

「令和 2 年心身障害者成人を祝う会」開催される



（第一部式典の様子）

「令和 2 年成人を祝う会」が、1 月 18 日（土）川崎市民プラザにて開催されました。当日は、前日から雪が舞うかもしれないという天気予報もあり、厳しい寒さの中での開催でしたが、新成人の方々の晴れやかな出で立ちと、にこやかな表情、そしてそれを取り囲むご家族の方々の参加のもと熱気に包まれた雰囲気の中で、第一部式典・第二部パーティーが行われました。

この「成人を祝う会」は、川崎市に関わる特別支援学校・養護学校、親の会、川崎市が実行委員会を作り会の運営に当たっています。また、当会も平成元年に第 1 回目を迎えてから今年で 32 回目となります。

式典は、実行委員長長の挨拶で始まり、川崎市市長、来賓を代表して川崎市議会副議長、社会福祉法人川崎市社会福祉協議会副会長からの祝辞、市長からの記念品の贈呈、新成人を代表して、神奈川県立高津養護学校卒業生・青木碩杜^{あおきひろと}さん、川崎市立中央支援学校卒業生・清野直太^{せいのなおた}さんがそれぞれ誓いのことばを述べられました。

青木さんからは、仕事のこと、趣味のはなし、これからの自身の進んでいく道について、そして今日こうして元気に成人のお祝いができることへの周りの方々への感謝の気持ちが語られ、清野さんからは、現在の仕事を通していつも感じている、上司・同僚の方への感



（第二部パーティーの様子）

謝の気持ち、また、ここに至るまで導いてくれた先生方、そして家族への感謝の気持ちを述べられるとともに、それらの関わりを通して自分自身も“誰かを支える人になりたい”という強い気持ちが語られました。

第二部のパーティーでは、久々に顔を合わせる仲間や学校の先生方とおしゃべり、そして高津高等学校チアリーディング部の演技がそれらに花を添え楽しいひと時を過ごしました。

この「成人を祝う会」は、川崎市が主催する成人式への参加・不参加に関係なく、参加を希望する市内に住む障害者や家族、関係者が集まって成人を祝い、励ますことを目的として実施しています。

※二十歳を迎え、「成人を祝う会」へ参加できる方は、原則、川崎市内の中学校の特別支援級や特別支援学校・養護学校を卒業し、川崎市在住の方です。案内は、卒業された特別支援学校・養護学校から届きますが、そのほかの学校を卒業された方で、11 月下旬までに案内が届かない時は、事務局までお問い合わせください。

成人を祝う会実行委員会事務局
社会福祉法人ともかわさき事務局分室
事務局連絡先 TEL 044-812-2966

FAX 044-813-1216

担当 藤巻 仁^{ふじまき ひとし}

川崎市内の作業所紹介 「あかね」

「あかね」は今年度 4 月に利用者さんが 2 名入り 56 名になりました。

現在法人内一番の大所帯となり(延べ床面積約 612 m²)、日々の仕事・行事等で楽しく過ごしております。

日中の過ごし方は、下請け作業としてボールペン組み立て・タオルたたみ等。自主製品作業は陶芸マグネット・刺繍等の他、「お楽しみ企画」を欠かしません。

仕事の息抜き(?)の散歩・ドライブに始まり、季節行事のクリスマス会・新年会等、みなさんの行きたいところ・したいことの希望を取り行う少人数での個別外出。大きな行事としては、あかね祭・グルメ旅行があります。(ちなみにグルメ旅行とは、食事をメインにした観光バスを利用しての日帰り旅行です)

職員はというと、現在支援員 23 名(パート含む)と、送迎車運転手 5 名で日々の業務に取り組んでいます。

日々支援をしていると、職員間で時には意見が食い違いぶつかり、時には支援に行き詰まり悩む場面をよく見ます。

しかし、事業所が違って、職員が違って、職員は「法人の理念」を念頭に統一した思いで支援に関われるよう「あかね」では職員室に「法人の理念」を大きく貼ってあります。

最後に「法人の理念」を書かせていただき施設紹介を終わりにしたいと思います。

お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄り下さい。お待ちしております。

「法人の理念」

1. 利用者が安心して利用できる事業所をめざします。
2. 利用者一人ひとりの人権を尊重し、利用者主体の上質なサービスを提供します。
3. 利用者の希望に沿った自立生活を実現できるよう適切に支援できる職員の育成に努めます。

社会福祉法人ともかわさき「あかね」

〒214-0011 川崎市多摩区布田 29-30

TEL 044-948-1203

FAX 044-948-1204

わたなべ のりひこ
渡辺 典彦



(職員室に貼られた「法人の理念」)



(「あかね」の外観)



視障協青年部ボウリング教室

皆さん、こんにちは。私は麻生区の金子です。今回の寄稿は、年に 1 回行われています視障協青年部主催のボウリング教室の様子をお話しさせていただきます。

開催日は令和 2 年 2 月 2 日（日）、場所は武蔵溝ノ口駅近くの「ムサンボウル」にて行われました。

時間は 10 時半から 13 時半まででした。

ボウリング教室の概要としては、四つのレーンを使い、各レーンにバンパーレーンを使用しました。

スコアハンデは全盲弱視を問わず、ありません。

参加人数は男性 12 名、女性 5 名の計 17 名でした。第 1 レーンは男性 4 名、第 2 レーンは男性 3 名女性 1 名、第 3 レーンは男性 5 名、第 4 レーンは女性 4 名でした。

流れとしては普通のゲーム形式で行い、各自 2 ゲームを投げ、トータルスコアとアベレージスコアを出しました。

各レーンのスコアが最も良かった方がトップ賞、その他の方は参加賞でした。

ほとんどの方がガイドヘルパーさんにボウリングシューズに履きかえてもらい、アプローチゾーンまでお手伝いしていただきました。

手伝ってもらいながらの投球なので、時間も多くなり、練習ボウルも時間内では足りず、いきなりゲーム本番になった方もいました。練習時間も通常より長く時間をとっていただければと思います。

いよいよゲームのスタートです。

各自、投球の際は目指せスコアメイク。

ストライク、スペアのたびに上がる歓声は、人に聞いてからなので、タイミングが少しずれます。それもまた楽しいものです。たまにある、バンパーレーンに弾かれながらのラッキーなストライク、スペアもご愛嬌。

1 ゲーム目は気力体力とも漲つて、わいわいがやがやと賑やかに進出し、2 ゲーム目

は少しお疲れ気味か、集中しているためか、聞こえてくる歓声が小さかったような気がしました。

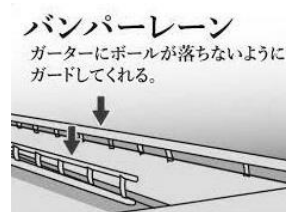
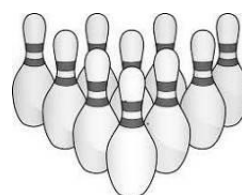
ゲーム終了後、成績が発表され、今回一番良かった方のスコアは 135 でした。

皆さん参加賞を受け取って、ボウリング教室は終了となり、少し長丁場のためか空腹を抱えながら、解散しました。

視覚障害者がボウリングを楽しむ機会は少ないので、団体として開催してもらえるのはとても有意義なことだと思いました。

次回も楽しみにしております。

NPO 法人川崎市視覚障害者福祉協会
青年部 金子 広明



オストミー協会地区別研修会

令和 2 年 2 月 23 日（日）13:30 より川崎市エポック中原 7 階 第 3 会議室において、川崎市・幸区・中原区の地区別研修会が行われました。

この研修会は、ストーマケアに関する体験をお互いに発表し合い、情報交換し、より良い方法の参考にするために、隔年毎に地区別に開催されるものです。

今回は、講師に、WOC ナース（読み方：ウオックナース 皮膚・排泄ケア認定看護師）の西出 薫氏（下北沢病院）をお招きし、会員の質疑に回答し、アドバイスを頂きました。

第 54 回日本視覚障害者団体連合 関東ブロック協議会 川崎大会

令和 2 年 2 月 23 日(日)～24 日(月)、かながわサイエンスパーク (KSP)にて、第 54 回日本視覚障害者団体連合 関東ブロック協議会 川崎大会が開催されました。

関東ブロック 13 団体のうち 2 団体が新型コロナウイルスの感染拡大を懸念して不参加となりましたが、日視連本部関係者、来賓、ボランティアの方々にご参加いただきました。

1 日目

第 1 部の開会式典では、(特非)川崎市視覚障害者福祉協会 船橋光俊 副会長による開会のことばの後、同会 関山進 会長による歓迎の挨拶、関東ブロック協議会 鈴木孝幸 ブロック長による主催者挨拶、高橋吉四郎 川崎大会実行委員長の大会宣言と続き、西川洋一 川崎市健康福祉局障害保健福祉部長、山崎直史 川崎市議会議長、福芝康祐 川崎市社会福祉協議会事務局長の来賓祝辞などが執り行われました。

第 2 部は日本視覚障害者団体連合会長の竹下義樹氏による『日視連の課題』を演題とした講演が行われました。

第 3 部は分科会で 5 つの分科会に分かれ、それぞれのテーマに従って意見を交わしました。各分科会のテーマは次の通りです。

- ・第 1 分科会 「生活」
同行援護、福祉有償運送等について
- ・第 2 分科会 「バリアフリー」
まちづくり、公共交通等について
- ・第 3 分科会 「職業」
あん摩師法 19 条、保有証等について
- ・第 4 分科会 青年 「コミュニケーション」
生活面・仕事業務上のコミュニケーションについて
- ・第 5 分科会 女性 「代筆・代読について」
分科会のあとは、団体長会議に続いて全員がホールに集まり懇親会を行う予定でしたが、

ウイルスの感染拡大を懸念し、飯田洋司氏によるサクソフォン演奏などのアトラクションは取りやめて、食事会に変更しました。

2 日目

9 時から第 4 部の全体会議で分科会の報告や関東ブロック事業報告、大会決議等を行う予定でしたが、宿泊をされない近隣からの参加者の再来場のご負担と、参加された皆様の健康を最優先に考え中止を決定いたしました。

宿泊された方は 1 階のレストランで朝食をとり、そのまま散会となりました。

参加された皆様、事前準備をされた皆様、お疲れさまでした。

主催：社会福祉法人日本視覚障害者団体連合会 関東ブロック協議会

主管：NPO 法人川崎市視覚障害者福祉協会

後援：川崎市

社会福祉法人川崎市社会福祉協議会
公益財団法人川崎市身体障害者協会
川崎市眼科医会

編 集 後 記

新型コロナウイルス感染予防のための日本政府による要請のもと、年度末を迎えて必要な行事、楽しい催物が軒並み中止になり、今回の紙面も幾分淋しいものになってしまいました。幸いにも「障害者作品展」は盛大に行われ、この紙面を賑やかに飾ることができました。他地域では、このような作品展が行われているのか興味があるところです。

次号までにはこの「ウイルス感染」が収束していることを祈るばかりです。そして、活発な活動報告ができればと思っています。

編集委員 大漣純子

発行人 神奈川県障害者定期刊行物協会

〒222-0035 横浜市港北区烏山町 1752 番地

障害者スポーツ文化センター横浜ラポール 3F

横浜市車椅子の会内

(頒価 100 円)